SPOTLIGHT
Leadership Eco System®
#1 寺本 龍正

あしなが学生募金事務局 2022年度事務局長

困難な状況に挫けず立ち向かう若者を側方支援する「Leadership Eco System」。当社のプロボノ研修を受講した参加者の中でも、特にリーダーシップを発揮していた若者をご紹介する『SPOTLIGHT』第一号は、2022年度のあしなが学生募金事務局長を務めた寺本龍正さんだ。社会人となった今、あしなが募金事務局での経験や、そこから得た学びについてお話を伺った。

「あしなが学生募金の魂を、どうにか次の世代に渡したかった」と事務局長時代を振り返る寺本さん。

あしなが学生募金事務局は、災害や病気、自死による遺児、の進学を、50年以上にわたって募金活動により支援している。メンバーの多くが自身があしなが育英会の奨学金を受けている大学生などだ。活動の中心は、春と秋に行われる全国での街頭募金活動。学生たちにとっては、社会への遺児の境遇改善という問題提起の場であり、自身が奨学金の受給という心ある人から受けた恩を、次の世代につなぐ「恩送り」をする場でもある。学生募金の魂だ。

寺本さんが事務局長に就任したのは2022年1月だった。新型コロナの影響で、街頭募金活動が途絶えて2年の月日が流れていた。事務局のメンバーの若手の大半が街頭に立ったことがなく、寺本さん自身もコロナ前に1度しか経験していない。危機感が募った。

社会的にまだ感染拡大防止が強く叫ばれていた中、街頭募金を復活させるには。悩んだ末、全国一斉開催から、都道府県単位でのリレー形式へ切り替えた。

実現は困難の連続だった。大切な幹部間での主張の対立もあった。活動に対する念い(おもい)は同じはずなのに、意見がずれていくもどかしさも味わった。

しかし、本当の難しさは募金活動当日に現れる。事務局メンバーの大半が、街頭で募金を呼びかけた経験がない。そのため後輩を指導できない。道行く人に訴えかける方法がわからず、現場は戸惑っていた。

寺本さんは、全国各地を飛び回り、街頭募金活動の意義や目的、その先に広がるビジョンを伝え続けた。時には自ら街頭に立ち熱弁をふるい、率先垂範した。

そうした行動をとった背景のひとつに、インパクトの研修での学びがあった。リーダーシップを発揮して、目指す事を成したいならば、目的やビジョンなど自身にとっての北極星を持ち、それを伝え続けなければならない。アクティビティやワークを通して得た学びは心に強く残っている。

不動産業界で働く社会人となった今も、その学びは生きている。遺児支援と住宅販売の共通点を「人の大きな意思決定のタイミング」に見出した寺本さん。その決定の場面に関わることで、誰かの人生をより豊かにし、支える。それが働く目的だ。また、個人のビジョンとしては「27歳までに会社の個人目標を大きく超え、家族に家を建てる」ことを描いている。そのために「資格試験や、聴く力の習得にも挑戦したい。またライフワークとして、社会課題解決のためのビジネスモデルを考え続けたい」と語ってくれた。

あしなが学生募金事務局のメンバーの多くが、学業にうちこんでいる上で、事務局の活動を行っている。組織・人材開発を手掛けるインパクトだからこそ、そうした若者たちのリーダーシップを開発を促し、活動の効果を高めるとともに、社会人にむけた準備へと結び付けたい。

寺本 龍正 (てらもと りゅうせい)
高校2年生の時、病気の父の他界により家計が悪化。2人の妹の大学進学を優先させるため、自身の進学を諦める。しかし、教員からあしなが育英会の奨学金制度を紹介され、大学へ進学。2019年にあしなが学生募金事務局に参加。2021年度の東海エリアマネージャーの後、2022年度に事務局長を務めた。2023年に就職。

Leadership Eco System® リーダーシップ・エコシステム®
SDGsの『4: 質の高い教育をみんなに』『10: 人や国の不平等をなくそう』『8: 働きがいも経済成長も』への統合的な取り組み。組織・人材開発コンサルティングを40年以上展開しているインパクトならではの活動として、1)社会的に難しい立場の若者を支援する団体への寄付、2)団体から支援を受ける若者への研修のプロボノ提供を行っている。